

楽天USリート・トリプルエンジン・プラス (リアル)毎月分配型

追加型投信/海外/不動産投信

交付運用報告書

(作成対象期間 2023年6月20日～2023年12月18日)

第90期(決算日 2023年7月18日) 第93期(決算日 2023年10月17日)
第91期(決算日 2023年8月17日) 第94期(決算日 2023年11月17日)
第92期(決算日 2023年9月19日) 第95期(決算日 2023年12月18日)

受益者の皆様へ

平素は当ファンドにご投資いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、このたび上記決算を行いました。当ファンドは、主として①米国リートへの実質的な投資、②「リートのカバード・コール戦略」、③「ブラジル・リアル戦略」、④「米ドル/円のカバード・コール戦略」という、4つの収益の源泉を反映するケイマン籍円建て外国投資信託に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。ここに当期間の運用状況につきまして、ご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

楽天投信投資顧問株式会社

<https://www.rakuten-toushin.co.jp/>

東京都港区南青山二丁目6番21号
本資料(交付運用報告書)の記載内容のお問い合わせ先
TEL：03-6432-7746
受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで
※お客様のお取引内容等につきましては販売会社にお問い合わせください。

Rakuten 楽天投信投資顧問

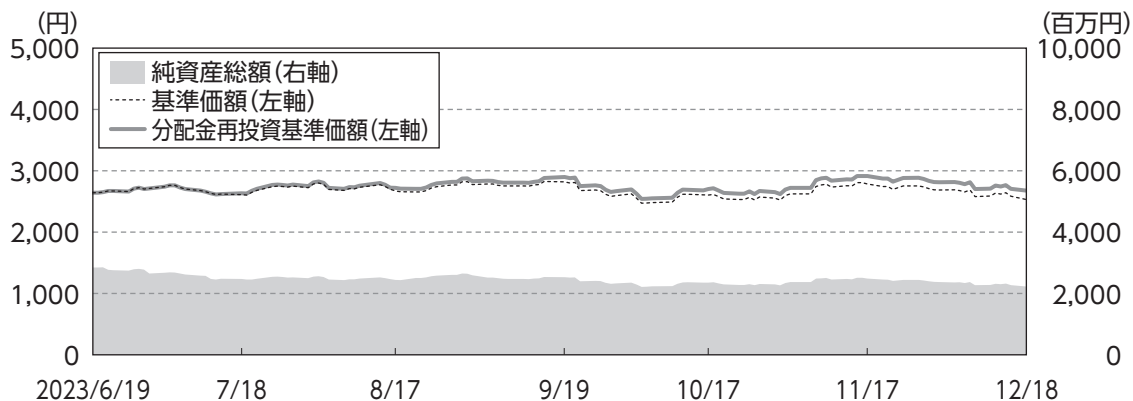
当作成期末	
基準価額	2,531円
純資産総額	2,226百万円
騰落率	1.3%
分配金合計	150円

(注)騰落率は分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。
<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記ホームページアドレスにアクセス
⇒「基準価額一覧」から当該ファンドを選択
⇒「運用報告書(全体版)」を選択し、閲覧およびダウンロード
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過の説明

1 基準価額等の推移



第90期首：2,642円

第95期末：2,531円(既払分配金150円)

騰落率：1.3%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を起点として指数化しています。

2 基準価額の主な変動要因

当作成期間における分配金再投資基準価額は前作成期末比で上昇しました。主な要因は以下の通りです。

米国リートETF要因

米国リートETFを保有するとともに、当該ETFを対象とするコール・オプションを売却した投資効果を楽しむカバード・コール戦略では、コール・オプションの売却により得られるオプション・プレミアムが順調に積み上がりました。米国リートETFが持ち直し基調を強めた期末にかけては、ETFの終値がオプションの行使価格を上回る推移となったものの、米国リートETFに係る戦略全体では、プラス寄与を確保しました。

ブラジル・リアル戦略要因

ブラジル・リアルが対円で下落したものの、ブラジル・リアル/円の金利差相当分を収益化する戦略から着実に収益を積み上げ、ブラジル・リアル戦略もプラス寄与となりました。

米ドル/円のカバード・コール戦略要因

円に対する米ドルのコール・オプションを売却した投資効果を楽しむカバード・コール戦略では、円に対する米ドルのコール・オプションの売却によるオプション・プレミアムによる収益が順調に積み上がったものの、過半の期間で米ドル/円レートが、オプションの行使価格を上回る推移となり、さらには期末にかけて米ドル安/円高が進行したため、米ドルに係る戦略全体ではマイナス寄与となりました。

3 1万口当たりの費用明細

項 目	当作成期		項 目 の 概 要
	2023年6月20日～2023年12月18日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	18円 (9) (9) (0)	0.673% (0.328) (0.328) (0.016)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は2,678円です。 ・委託した資金の運用の対価 ・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 ・運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (投資信託証券)	2 (2)	0.056 (0.056)	(b) 売買委託手数料＝ $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	－	－	(c) 有価証券取引税＝ $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	1 (－) (0) (1) (0)	0.052 (－) (0.004) (0.039) (0.009)	(d) その他費用＝ $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・印刷費用は、有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用 ・その他は、金銭信託への預入金額に対する手数料、その他投資信託財産の運営にかかる費用等
合 計	21	0.781	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

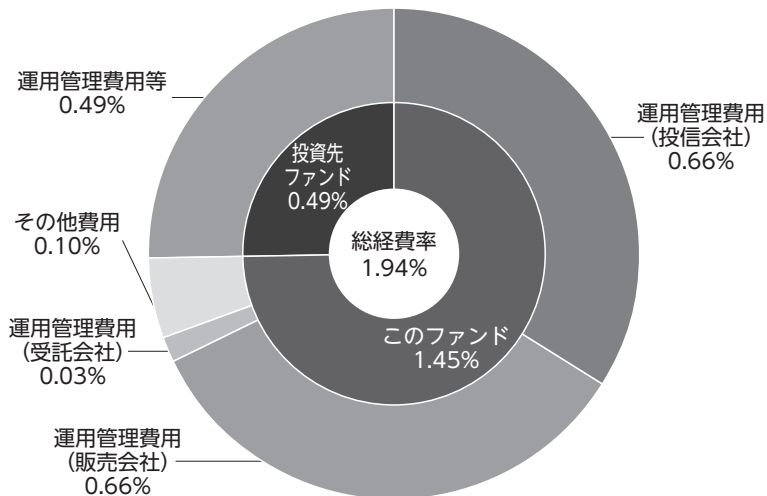
(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注5) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く)が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示することとしております。

■（参考情報）総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.94%です。



総経費率 (①+②)	1.94%
①このファンドの費用の比率	1.45%
②投資先ファンドの運用管理費用等の比率	0.49%

(注1) このファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) このファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

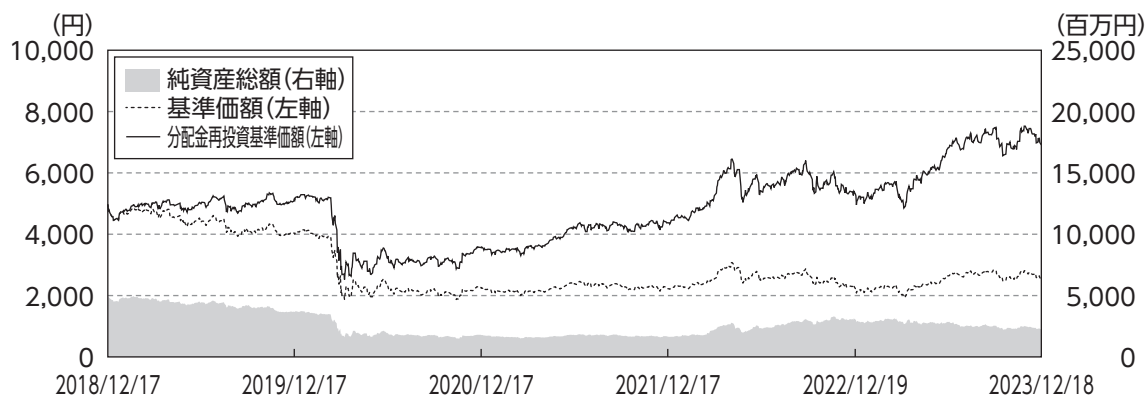
(注6) このファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

4 最近5年間の基準価額等の推移

(2018年12月17日～2023年12月18日)



	2018年12月17日 決算日	2019年12月17日 決算日	2020年12月17日 決算日	2021年12月17日 決算日	2022年12月19日 決算日	2023年12月18日 決算日
基準価額 (円)	4,967	4,024	2,236	2,224	2,226	2,531
期間分配金合計 (税込) (円)	—	1,080	540	480	480	330
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	3.5	△30.8	23.0	21.3	30.1
純資産総額 (百万円)	5,020	3,668	1,764	1,631	3,033	2,226

(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドの運用方針に対応する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

(注4) 分配金再投資基準価額は、2018年12月17日の基準価額を起点として指数化しています。

5 投資環境

●米国リート市場

当作成期の米国リート市場は、上昇しました。

インフレ指標の低下や景況感の改善などを背景とした米国経済のソフトランディング期待の高まりを受けて、米国リート市場は堅調な滑り出しとなったものの、大手格付け会社フィッチによる米国債の格下げや、長期金利の上昇とそれに伴う景気減速への懸念、中東における地政学リスクの高まりなどを受けて、2023年10月下旬にかけて軟調地合いとなりました。しかし、パウエルFRB(米連邦準備制度理事會)議長によるハト派的(金融引き締めに消極的)な発言や予想を下回る10月雇用統計などを受けて長期金利が低下基調に転じると、ソフトランディングへの期待が再び高まるなか、米国リート市場は反転し、期末にかけて急速に持ち直す展開となりました。

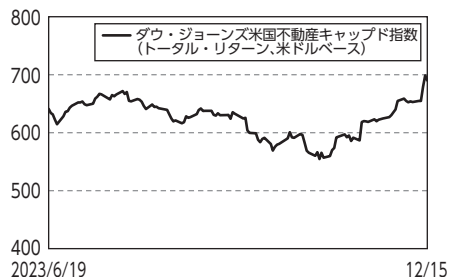
※米国リート市場の参加者には利回り重視の投資家が多く、米長期金利の水準はリートの配当利回りと比較され、リートの相対的な投資妙味を判断する重要な材料となっています。長期金利の上昇は通常、リートの利回り面での相対的な魅力を低下させる要因として、逆に長期金利の低下はリートの利回り面での相対的な魅力を向上させる要因として、それぞれ認識される傾向があります。

●為替市場

ブラジル・リアル/円相場

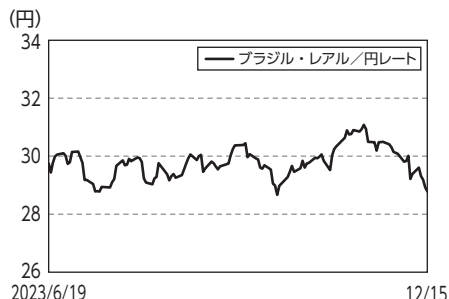
当作成期のブラジル・リアル/円相場は、期前半は揉み合う推移となり、期後半に入ると短期間の調整を経てまとまって上昇したものの、期末にかけては下押し圧力が優勢な状況が続き、前作成期末比ではブラジル・リアル安/円高が進みました。

期前半はブラジル中央銀行による利下げ開始や主要貿易相手国である中国の景気減速等がリアルの重しとなった一方、底堅いブラジルの経済状況や財政規則法案の可決・施行を受けた財政リスク低下への期待などが支援材料となりました。期後半は、2023年10月上旬にかけて米国の金融引き締め長期化懸念と米長期金利の上昇を主因に、リアルは対米ドルだけでなく、対円でも調整圧力が強まりましたが、米長期金利の上昇が一服すると買い戻しの動きが広がり、11月中旬にかけて持ち直す推移となりました。しかしその後は、米国の利上げ打ち止め/早期利下げ観測や日本銀行の政策正常化の思惑などを背景に、米ドル中心に円高基調が強まるなか、リアルも対円での下落幅を拡大する展開となりました。



(出所)ブルームバーグのデータ等を基に楽天投信投資顧問にて作成

※ファンドの基準価額への反映を考慮し、作成期間を1営業日前にずらして作成しております。



(出所)ブルームバーグのデータ等を基に楽天投信投資顧問にて作成

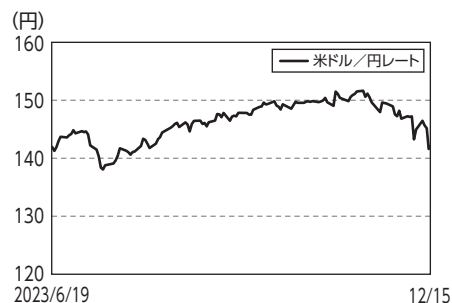
※ファンドの基準価額への反映を考慮し、作成期間を1営業日前にずらして作成しております。

米ドル／円相場

当作成期の米ドル／円相場では、期初1米ドル＝142円前後でスタートした後、日本当局による為替介入や日本銀行の政策修正への警戒感から円高に振れる場面はありましたが、米金利の上昇と歩調を合わせる形で大幅に米ドル高／円安が進行し、2023年10月から11月にかけては一時1米ドル＝151円台後半に達しました。しかし、その後は米金利上昇が一服したことなどを背景に米ドル安／円高基調に転じ、期末には期初の水準から概ね横ばいの1米ドル＝142円近辺で推移しました。

●国内短期金融市況

当作成期は、日本銀行による大規模な量的・質的金融緩和が継続するなか、日本の短期金利は引き続き低位で推移しました。短期金利の代表的な指標の一つである国庫短期証券(3ヵ月物)金利は期を通じてマイナス圏で推移し、期末には△0.18%近辺で推移しました。



(出所)ブルームバーグのデータ等を基に楽天投信投資顧問にて作成

※ファンドの基準価額への反映を考慮し、作成期間を1営業日前にずらして作成しております。

6 当ファンドのポートフォリオ

当ファンド

追加設定・解約による資金フローを鑑みながら、主要投資対象である「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-USリート・トリプルエンジン・プラス・ファンド(適格機関投資家専用)(ブラジル・リアル・クラス)」(以下「外国投資信託」)のパフォーマンスを享受すべく、当該外国投資信託の組入比率を高位に維持する運用を行いました。また、投資信託財産の一部を、「楽天・国内マネー・マザーファンド」の受益証券に投資しました。

外国投資信託

担保付スワップを通して、以下の取引を行った場合に得られる投資成果を享受する運用を行いました。

- ① ダウ・ジョーンズ米国不動産キャップド指数を対象としたiシェアーズ米国不動産ETFへの投資
- ② 当該ETFに係るコール・オプションの定期的な売却
- ③ 円売り／ブラジル・リアル買いの1ヵ月物外国為替先渡取引
- ④ 円に対する米ドルのコール・オプションの定期的な売却

楽天・国内マネー・マザーファンド

主に、国庫短期証券や高格付CPを対象にした現先取引による運用を行いました。

7 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

8 分配金

分配金額は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価損益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定しました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、投資信託財産内に留保し、運用の基本方針にもとづいて運用いたします。

(1万口当たり・税込)

項 目	第90期	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期
	2023年6月20日~ 2023年7月18日	2023年7月19日~ 2023年8月17日	2023年8月18日~ 2023年9月19日	2023年9月20日~ 2023年10月17日	2023年10月18日~ 2023年11月17日	2023年11月18日~ 2023年12月18日
当期分配金 (円)	25	25	25	25	25	25
(対基準価額比率) (%)	(0.949)	(0.927)	(0.879)	(0.951)	(0.890)	(0.978)
当期の収益 (円)	25	25	25	25	25	25
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	3,416	3,477	3,542	3,595	3,659	3,720

(注1)「対基準価額比率」は「当期分配金」の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2)「当期の収益」は経費控除後の配当等収益および経費控除後の有価証券売買等損益、「当期の収益以外」は収益調整金および分配準備積立金です。

(注3)「当期の収益」および「当期の収益以外」は、円未満を切捨てて表示しているため、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンド

引き続き、「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ－USリート・トリプルエンジン・プラス・ファンド(適格機関投資家専用)(ブラジル・リアル・クラス)」(以下「外国投資信託」と「楽天・国内マネー・マザーファンド」)を投資対象とし、外国投資信託への投資割合を高位に維持することを目指します。

外国投資信託

引き続き、担保付スワップを通して以下の取引を行った場合に得られる投資成果を享受することを目指します。

- ① ダウ・ジョーンズ米国不動産キャップド指数を対象としたiシェアーズ米国不動産ETFへの投資
- ② 当該ETFに係るコール・オプションの定期的な売却
- ③ 円売り／ブラジル・リアル買いの1ヵ月物外国為替先渡取引
- ④ 円に対する米ドルのコール・オプションの定期的な売却

楽天・国内マネー・マザーファンド

資産の保全と流動性に留意しながら、国庫短期証券や高格付CPを対象にした現先取引、コール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を目指します。

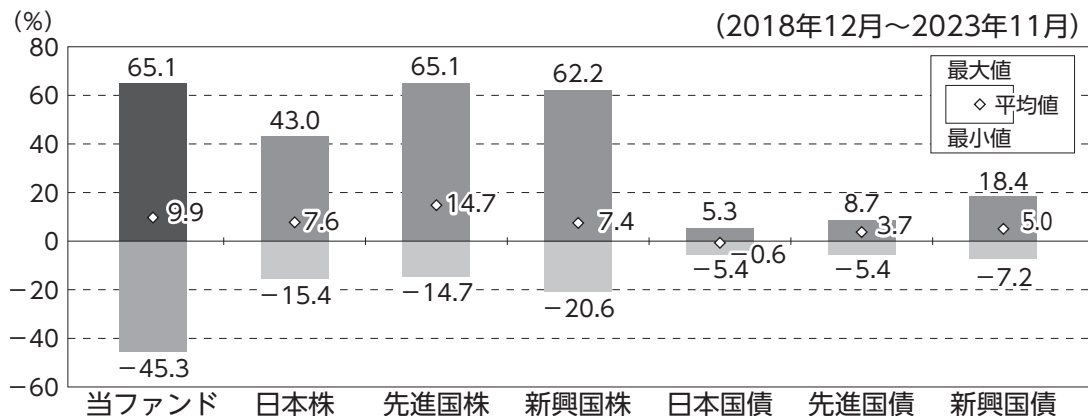
お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／不動産投信
信託期間	2016年1月7日から2026年1月16日まで
運用方針	安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	<p>①主にケイマン籍円建て外国投資信託への投資を通じて、米国リートに実質的に投資するとともに、米国リー트의コール・オプションの売却および円に対する米ドルのコール・オプションの売却によってオプション・プレミアム収入を獲得する2つのカバード・コール戦略による運用を実質的に行います。また、円売り／ブラジル・レアル買いの為替取引(ブラジル・レアル戦略)を行うことにより、円とブラジル・レアルの金利差相当分の収益と対円でのブラジル・レアルのパフォーマンスの獲得を目指します。なお、投資信託財産の一部を、親投資信託である「楽天・国内マネー・マザーファンド」の受益証券に投資します。</p> <p>②投資信託証券への投資割合は、原則として高位を維持することを基本とします。</p>
分配方針	<p>分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。</p> <p>収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。</p> <p>収益分配に充てなかった留保益の運用については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。</p>

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1)当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したもので、決算日に対応した数値とは異なります。

(注2)当ファンドの年間騰落率は、分配金再投資基準価額に基づいて計算した騰落率であり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注3)すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの騰落率は以下の各指数の騰落率です。

日本株：S&P日本総合指数(トータル・リターン、円ベース)

先進国株：S&P先進国総合指数(除く日本、トータル・リターン、円換算ベース)

新興国株：S&P新興国総合指数(トータル・リターン、円換算ベース)

日本国債：ブルームバーグ・グローバル国債：日本インデックス (円ベース)

先進国債：ブルームバーグ・グローバル国債 (日本除く) インデックス (円ベース)

新興国債：ブルームバーグ新興市場自国通貨建て高流動性国債インデックス (円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※上記各指数に関する知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

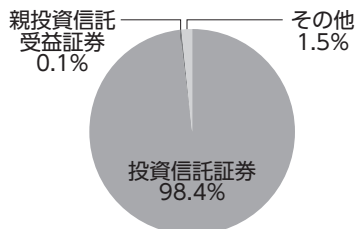
当ファンドのデータ

1 当ファンドの組入資産の内容

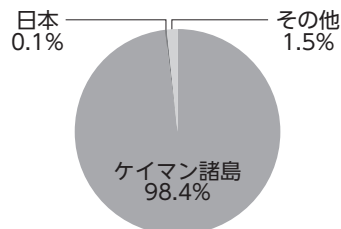
■組入ファンド

	当作成期末
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-USリート・トリプルエンジン・プラス・ファンド(適格機関投資家専用)(ブラジル・リアル・クラス)	98.4%
楽天・国内マネー・マザーファンド	0.1%
その他	1.5%
組入ファンド数	2

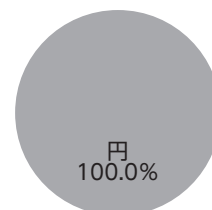
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 (注2)国別配分につきましては発行国を表示しております。

2 純資産等

項 目	第90期末	第91期末	第92期末	第93期末	第94期末	第95期末
	2023年7月18日	2023年8月17日	2023年9月19日	2023年10月17日	2023年11月17日	2023年12月18日
純資産総額	2,472,925,114円	2,446,411,574円	2,531,987,743円	2,352,277,401円	2,489,599,884円	2,226,150,306円
受益権総口数	9,475,659,285口	9,155,255,378口	8,982,673,072口	9,033,400,787口	8,943,972,403口	8,794,946,548口
1万口当たり基準価額	2,610円	2,672円	2,819円	2,604円	2,784円	2,531円

※期中における追加設定元本額は1,439,392,887円、同解約元本額は3,424,559,327円です。

3 組入ファンドの概要

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-USリート・トリプルエンジン・プラス・ファンド(適格機関投資家専用)(ブラジル・リアル・クラス)

運用経過等に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

■基準価額の推移

(2021年12月1日～2022年11月30日)



■1万口当たりの費用明細

当該情報が取得できないため記載しておりません。

■組入上位10銘柄

(2022年11月30日現在)

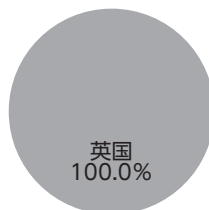
	銘柄名	国/地域	比率 %
1	Options trading linked to US REIT index and USD/JPY and BRL/JPY foreign exchange rate overlays	英国	100.0
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
組入銘柄数		1	

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

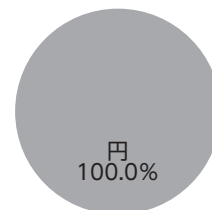
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)スワップ取引および各配分はクレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドより入手した情報を基に作成しております。

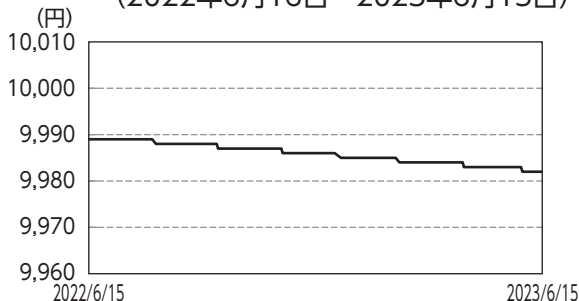
3 組入ファンドの概要

楽天・国内マネー・マザーファンド

運用経過等に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

■基準価額の推移

(2022年6月16日～2023年6月15日)



■1万口当たりの費用明細

(2022年6月16日～2023年6月15日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.002% (0.002)
合計	0	0.002

期中の平均基準価額は9,985円です。

(注)費用項目については3ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

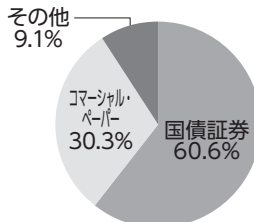
■組入上位10銘柄

(2023年6月15日現在)

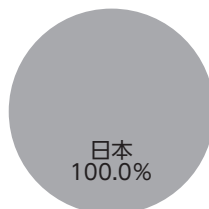
	銘柄名	発行国	比率 %
1	第1153回国庫短期証券	日本	60.6
2	オリコオートL04XB	日本	30.3
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
組入銘柄数		2	

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

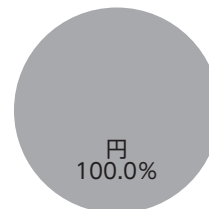
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)国別配分につきましては発行国を表示しております。